

ながえの里だより

医療法人ながえ会 広報誌(第42号)

発行日 令和5年11月20日

発行責任者 西村美智子



日本医療機能評価機構 認定病院
医療法人ながえ会

庄原同仁病院

庄原同仁病院介護医療院

〒727-0203 庄原市川北町890-1

Tel : 0824-72-7300

Fax : 0824-72-7333

e-mail : info@nagaekai.com

URL : <https://nagaekai.com/>



「コスモス」 環境管理 坂元春江

岡山県にあるドイツの森で撮影しました。コスモスがたくさん咲き誇っていました。

天気も良く、ビールとソーセージがより一層おいしそうでした。

基本理念

わたくしたちは、すべての人に等しく

仁愛の精神をもって接し、

心の通う医療の実践に努めます。

基本方針

患者様の満足:常に患者様の立場に立って行動します。

職員の満足:働きやすく、やりがいのある職場づくりに努めます。

地域の満足:医療サービスを通じて地域の方々に喜ばれるよう努めます。

秋の風

医療法人ながえ会 理事長 村尾文規

コスモスは風も吹かぬに揺らぎおり憂きこと多きひと日を思う

コスモスは、気づけば軒先に咲いているという控えめなところが、ことさら風情をさそう。うす紅色のコスモスが秋の夕日のなかで揺れているさまを見て慌てて辺りを見渡してみても風の気配がない。それほどまでに繊細な花であるが故にこの光景をみると、そぞろ悲しくなる。秋の風を色なき風と呼ぶことがある。華やかな色をもたず、無色と透明のなかに、身にしみいるような秋風の寂寥感を表しているのだそうだ。

月みれば ちぢにもものこそ 悲しけれわが身一つの 秋にはあらねど (大江千里)。

月を見ると、あれこれきりもなく物事が悲しく思われる。風も花も月も秋にふさわしい雰囲気醸し出す効果があり、その相乗効果が、一層、秋という季節感をもたらしているのである。秋は、人に物思いにふける機会を準備しているようである。ここを終の棲家としている方々にとっては、なおさらであろう。人はだれでも自分の心の中を覗いて、他人にないものを、自分だけにあるものを探し求めるものだという。哲学者は、これを『自分とは』、『私とは』と問うているのだと言う。じかに自分の顔さえ見ることさえできないのに、日ごろ、私たちは、自分のことは、自分が一番よく知っていると思うのだが、笑止千万だ。自分に固有なものを発見することは絶望的にちかいという。いやそんなことはない、覗き込めばのぞきこむほど煩悩の餌食となり、抜け出せなくなるのが落ちである。性懲りもなく、時を経て、再び、思いにふけるのだが、つまるところ、

自分の行為に基準や規則を持ち込んで、自分に形を与えようとするが、固有のものなどないにひとしいのだから、基準や規則を変更することになる。形を与えようとする行為は徒労に終わるか、いびつな形を与えることになりかねない。形など曖昧模糊にしておけばよいのだが、それでも、また、忘れていたはずの『私はだれ』と問う。

仏教の教えに学べば、抵抗しない 考えない 執着しないということなのだが、これもまた実行は難しい。普通が一番なのだが、普通の意味はだれも教えてくれない。

気に入らぬ風もあろうに柳かな (仙厓禅師)

耐えがたいような風もあるであろうに、逆らうことなく柔軟に対応している。風のながれに身をまかせておけばいいのだと教えている。

窓の外には、スタッフが丹精した色とりどりのコスモスが咲いている。花を愛でながら風を感じてみては如何か。そういう機会を作り、ともに楽しむことは大切な任務である。コスモスの揺らぎもまた私たちに生きるヒントを与えてくれているのかもしれない。

冒頭の句は、つるべ落としの秋の一日、陽だまりに咲いたコスモスを見ながら詠んだものである。

一日のいわれなき批判や仕打ちなど陰鬱なことを思い出していたのだが、コスモスは、柔軟な心で対応することを、そっと、ささやいてくれているように思えた。それにしても秋の一日は、長い。

千秋にも思えるのだが。



「生活の質の向上を目指して」

リハビリテーション科 作業療法士 西岡進吾

当院では月曜日から土曜日の午前・午後のレクリエーションだけでなく、アクティビティ委員会が中心となって季節に合わせた院内行事を行っています。かねてより広報誌やホームページなどで紹介させていただいているように、当院の役割のひとつに「患者さまの生活の場として機能する」というものがあると思います。

当院に入院をされている患者さまは、それぞれが抱えられている病気や障害に対して継続的な医療・介護によるフォローが必要で、かつ昨今の新型コロナウイルスの流行もあり、なかなかご自宅へ帰ることが難しい方が多いのが現状です。もちろん生活の場の根幹には、生命を維持するための活動を保障することが大前提としてあると思います。ただ、それだけを行う場所は果たして「生活の場として機能している」と言えるのでしょうか。私は人間にとってそれ以外の活動である遊びや余暇活動が生活に彩りを添えてくれる環境こそが本当の意味での生活の場ではないかと考えています。また、人間は周囲の環境と関わることで、今自分がどのような状態なのかを認識することができます。

春に桜の木の下で春風を感じたり、秋には山の色彩が黄赤へと移ろいゆくのを眺めたりすることで人間は季節を感じ取り、時間の概念や自分の身体の形などを知覚します。院内行事は患者さまに楽しんでいただくことに加えて、そうした機会を提供する場にもなっています。普段病室ではあまり表情の変化が見られなかった患者さまが、院内行事に参加しているときに、つい口元がほころんでいる姿を見ると、職員として大変嬉しく思います。

そのような小さな積み重ねこそが患者さまのQOL (Quality Of Life : 生活の質) を向上させる手段のひとつなのではないかと思います。これからも十分な感染対策を行いながら、職員一丸となって院内行事に取り組んでいきたいと思っています。



節分行事 2月



ひな祭り 3月



七夕行事 7月



夏祭り 8月



ハロウィン 11月



クリスマス 12月

Topics

FaceBookをご覧ください

医療法人ながえ会では、地域の方々に庄原同仁病院・庄原同仁病院介護医療院のことを知っていただく試みのひとつとして、FaceBookの投稿を行っています。

今回の記事にもある院内行事の様子はもちろん、実際に提供している食事メニューなどを写真とともに紹介しています。ホームページからも閲覧できるので、ぜひ、ご覧ください。

栄養課主任 栄養士 中原幸恵



Information

病室での面会を再開します

これまで、患者さま、ご家族の皆さまにご不便をおかけしてありましたが、この度、病室内での面会を再開させていただきます。

感染予防の観点から、回数や時間、人数の制限などを設けさせていただきますので、皆さまのご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

面会の方法：事前予約制 病室内で対面での面会 週1回15分

面会可能な方：患者さまのご家族に限り1回に2名の方の入室が可能
(高校生までの学生の方は不可)

感染予防：発熱や咳、喉の痛みなどの症状がある方はご遠慮ください
サージカルマスクの着用をお願いします(布マスクは不可)

お問い合わせ：地域連携室 相談員 山野 TEL 0824-72-7300



NewFace

新入職員紹介



植松 葵 看護師 介護医療院 令和5年8月入職

「今までは福祉施設での経験が長く、病院経験は少ないですが、1日1日出来ることを増やしながら成長していきたいと思っています。患者さまとゆっくり関わりながら『一日一笑(いちにちいっしょう)』を心がけてケアに努めていきたいです」



編集後記

今回のテーマは、院内行事についてでした。当院には、ベッド上で寝たきりの状態で毎日の生活を過ごされる患者さまも多くおられます。私たち職員が、「生活の質の向上」のためにすぐにでもできることは何なのか？ まずは私たち一人一人の患者さまに対して前向きになれるような日々の声掛けや視点を持つことが大切だと考えます。これからも患者さまが、少しでも生活の楽しみを見つけられるように、日々心掛けていきたいと思ひます。

介護医療院 介護福祉士 伊達信介